

★ ネギ・タマネギのべと病 情報

ネギやタマネギでべと病の発生を確認しています。
引き続き、今後の発生動向に注意してください。

平成31年3月15日付け病虫害発生予察注意報第1号で「**ネギべと病の発生が多い**」として発表しています。

注意報発表後も、農林センター環境部と約7日間隔で実施している発病調査では、4月18日現在、調査ほ場（29ほ場）の37.9%で発生を確認しています。

また、タマネギべと病についても、農業改良普及センターからの発生の情報や農林センター環境部への持ち込み診断でタマネギべと病の発生を確認しています。

大阪管区气象台が4月18日に発表した「近畿地方の向こう1か月の気象予報」では気温は平年比高く、降水量は平年比多く、日照時間は平年比少ない。」と予想されていることから、**ネギ及びタマネギのべと病の発生はさらに増加するものと思われ、今後の発生に十分注意してください。**

●ネギべと病の発生

表1 ネギべと病の発生推移

(平成31年調査)

調査日	3/8	3/14	3/22	3/29	4/5	4/12	4/18
調査ほ場数	28	30	25	27	26	27	29
発病株率(%)	0.0	0.3	0.1	0.1	1.0	2.8	1.5
発生ほ場率(%)	0.0	10.0	8.0	7.4	26.9	29.6	37.9

*1ほ場当たり100株調査

●防除上の注意事項

- (1) 平均気温が15～20℃前後で、降雨の多いときに発生が多くなるので、曇雨天が続く場合は、発生に注意する。
- (2) ほ場の水はけの悪い箇所から本病が発生しやすくなるので、排水に努める。
- (3) 被害葉は、翌年の発生源となるので、収穫後の被害葉は集めてほ場外に持ち出し、土中深くに埋めて処分したり、古ビニル等で被覆し胞子の飛散を防ぐ。
- (4) ネギべと病の薬剤散布は
・平成31年3月15日付け病虫害発生予察注意報第1号
<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/h31tyuiho1.pdf>
を参考に、**発病前や発生初期から定期的に登録のある殺菌剤を散布し、まん延（二次伝染）防止に努める。**
また、使用薬剤は異なる系統のものを用い、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (5) 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用する。最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認すること。
(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)